

# 令和7年度 学校評価

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
<b>1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進</b> 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に向けていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にすること、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など)	<b>2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進</b> 学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。	「豊かな心と健やかな体を育む教育の充実」については肯定的な回答が90%を超えており、道徳教育、教科体育の充実や総合的な学習の時間における地域との連携による活動の成果だと考えられる。「自ら学びに向かう力」について、生徒の肯定的な回答が70%と保護者、職員に比べて低く、熊本市授業づくり3つの視点に立って指導法の工夫改善をさらに進めていく必要がある。
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
<b>3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進</b> 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)	「社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力」については、保護者や教職員では肯定的な回答が95%を超えている一方、生徒は74%と低い。地域と連携した体験活動の充実と努めるとともに、その成果や課題を発信・交流する場を設けることが求められる。また、委員会活動の活性化や生徒主体の生徒集会を実施し、学校や地域の課題について話し合う機会を増やすことで、自ら考え行動する力を育てていく。	
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
<b>4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実</b> 学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。	学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができてきていると思いますか。	「学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくり」については、肯定的な回答が70%と昨年とあまり変化がなかった。今後も、ICT等を活用し、自分で選択し、学ぶ場の設定を図っていく。また、「対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業」については、昨年度に比べ、教職員の「そう思う」と答えた教職員は2倍になり、研究授業等の成果だと考えられる。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
<b>6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実</b> 学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。	<b>7 インクルーシブ教育の推進</b> 学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。	「特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実」については肯定的な回答は85%、「インクルーシブ教育の推進」についても80%を超えており、特別支援委員会や教育相談の充実、SC・SSWなど関係機関との連携による成果だと考えられる。今後も、短学活でのSSTを継続して実施し、コミュニケーション能力の育成や良好な人間関係づくりに努めていく。

(3) 最適な教育環境の整備																									
8 安全・安心な園づくりの推進	9 地域や家庭と連携した教育環境の整備																								
学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。	学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。	「安全・安心な園づくりの推進」、「地域や家庭と連携した教育環境の整備」については、肯定的な回答がともに80%を超えており、日々の安全点検や交通安全の定期的な呼びかけ、地域人材を活用した環境教育に取り組んできたことによる成果だと考えられる。今後もコミュニティ・スクールモデル校として、地域や保護者と連携しながら教育環境の充実を図っていく。																							
<table border="1"> <caption>Item 8: Safety and安心 environment promotion</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Yes (%)</th> <th>No (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>85</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>80</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>95</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	Category		Yes (%)	No (%)	保護者	85	15	児童生徒	80	20	教職員	95	5	<table border="1"> <caption>Item 9: Collaboration with community and family</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Yes (%)</th> <th>No (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>85</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>40</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>65</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Yes (%)	No (%)	保護者	85	15	児童生徒	40	60	教職員	65
Category	Yes (%)	No (%)																							
保護者	85	15																							
児童生徒	80	20																							
教職員	95	5																							
Category	Yes (%)	No (%)																							
保護者	85	15																							
児童生徒	40	60																							
教職員	65	35																							

(4) こどものいのちと権利の擁護													
10 こどもの最善の利益を守る環境づくり													
学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。		「こどもの最善の利益を守る環境づくり」については、肯定的な回答が80%を超えており、各種だよりの作成や毎日のホームページ更新、すぐるによる情報発信を通して生徒の様子や意見を伝えていることに加え、教育相談の充実、授業参観でのアンケート実施・公表、懇談会の開催などが行われているためだと考えられる。											
<table border="1"> <caption>Item 10: Best interests of children</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Yes (%)</th> <th>No (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>85</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>児童生徒</td> <td>45</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>60</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table>	Category		Yes (%)	No (%)	保護者	85	15	児童生徒	45	55	教職員	60	40
Category	Yes (%)	No (%)											
保護者	85	15											
児童生徒	45	55											
教職員	60	40											

**来年度の具体的な取組について**

○全職員が協働し、生徒が笑顔あふれ、成長が実感でき、互いよさを認め、協力し、助け合う「輝きと潤い」のある学校を目指す。そのためには、教育活動すべてにおいて、自ら考え、判断し、行動できる、心豊かなで活気に富んだ生徒を育てる。

○熊本市の授業づくり3つ（めあて・対話・振り返り）に立って指導法の工夫改善を図るため、授業研や講師招聘の活用等を行い、対話的な学びの充実や課題提示の工夫・ICT等を活用した個別最適化な学びの場を取り入れ、学力向上を目指す。

○各教科と総合的な学習の時間や特別活動の系統性を図り、地域課題に目を向けさせ、地域人材の積極的活用や地域ボランティア活動を多く取り入れ、解決する場の設定を図り、各種だよりの発行やホームページ公開し、日々の活動の様子を保護者や地域に発信する。

**小中学校関係者評価**

○話し合い活動を円滑に進めるために、授業形態に応じた座席配置の工夫が必要である。

○「自ら学びに向かう力」や「社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力」について、生徒と教職員の評価に差が見られる。この要因をさらに分析し、授業改善や地域と連携した体験活動の充実につなげていく必要がある。

○電子機器（タブレット）や電子黒板は活用できているが、機器に意識が集中しすぎて、話を聞く態度に課題が見られる。そのため、適切な学習態度を身につけるための指導が必要である。